
探究心を大切に、 主体的に課題を解決しようとする児童・生徒の育成

— 児童・生徒の「なぜ」「どうして」を生かした

効果的な導入の工夫を通して —

桐生市立広沢小学校 森崎 靖子
桐生市立神明小学校 永井 彩加
桐生市立中央中学校 山本 幸司
桐生市立新里中学校 永田 将也

1 主題設定の理由

小学校では令和2年度から、中学校では令和3年度から新学習指導要領が全面实施となった。「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が求められており、その三つの視点のうちの一つとして「学ぶことに興味・関心をもち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる『主体的な学び』が実現できているかという視点」の重要性が説かれている。これは必ずしも一単位の授業で実現されるものではなく、「単元や題材など内容や時間のまとまりをどのように構成するかというデザインを考えることに他ならない。」とされている。

これを受けて、群馬県教育委員会では、『学校教育の指針』において、確かな学力の育成として『はばたく群馬の指導プランⅡ』を活用するなど「『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善の推進」を定め、平成24年に作成・配布された「はばたく群馬の指導プラン」から続く、「子どもたちの『なぜ』『わかった』『面白そう』といった疑問や気づきを基に、学習意欲を高め、自ら課題を発見し、他者と協働しながら課題の解決を図る」学習のさらなる進化の重要性を述べている。

また、桐生市教育委員会では、令和3年度教育行政方針において、「育成を目指す資質・能力の明確化と、教材開発及び学習過程の工夫」「授業の冒頭でめあてを示す活動と授業の最後に振り返る活動の徹底」「学習課題を自力で解決できる児童・生徒の育成」を事業目標として挙げている。

このような状況の中、学力向上班では、「主体的・対話的で深い学び」を実現させるためには、児童・生徒の思考の流れを意識した単元構想を行い、児童・生徒自身が「なぜだろう」という探究心をもち、追究していこうとすることが重要であると考えた。1単位時間の中でも、児童・生徒との対話を通して、授業の視点が明確化できるような導入の工夫を検討することで、日常指導の充実を図り、校種・教科に関わらず児童・生徒が主体的に学習に取り組む態度を涵養することができると考え、本主題を設定した。

2 研究のねらい

導入場面での対話を大切に、児童・生徒の発言やつぶやきを生かした効果的なめあての提示をすることで、見通しをもって学習に取り組み、また追究場面で主体的に課題を解決しようとする姿につながることを、実践を通して明らかにするものである。

3 研究の見通し

導入場面での対話を大切にし、児童・生徒の気づきや疑問を生かしたためあての設定をすることで、主体的に課題を解決しようとする意欲を高めることができるであろう。

4 研究の内容と方法

(1) 研究計画

1 学期	○研究主題・副主題の検討 ○主題設定の理由の検討 ○主題検討会（全体協議） ○研究のねらい、見通し、 研究計画の検討
2 学期	○指導案の検討 ○授業実践（小学校、中学校） ○中間検討会（班別協議） ○草案検討会（班別協議）
3 学期	○研究報告原稿の作成 ○研究報告原稿のまとめ

(2) 基本的な考え方

①「探究心を大切に」とは

児童・生徒が自ら気づきや疑問をもち、物事を深く理解しようとする姿勢のことを「探究心」とする。本研究では、「なぜだろう」「面白そう」という探究心をもち、追究していこうとする姿が児童・生徒の資質・能力の確実な育成につながると考えた。

②「主体的に課題を解決」とは

本研究の目指す児童・生徒の姿として、課題に対して児童・生徒が自ら問いを持ちながら思考・表現して関わっていくことを主体的であると捉える。解決した結果だけでなく、気づきや疑問、見通しなどを表現しながら解決しようとする児童・生徒の姿であると考えた。

③「効果的な導入の工夫」とは

児童・生徒が「なぜ、そうなるのか」「どうして、そうだと言えるのか」という疑問を持てるように意図的に発問を工夫したり、資料活用を工夫したり、考えを比較・検討したりする場面を作り、そ

こから毎時間のめあてが形作られていくのが理想である。

そのため、本研究では対話※を通して、授業の視点が明確化できるような導入を工夫することが重要であると考えた。

児童・生徒のつぶやきをもらさずにキヤッチし、教師が適切な返しを行うことで、課題意識をもたせて授業に向かわせることが「導入の工夫」と考える。

※対話とは…「他者」と向き合うことを指す。対話的な場面は、「問題の解決に向けての児童・生徒同士での対話」「教職員や地域の人へ対象を広げての対話」「昔の人の優れた考え方、文献、作品などに含まれる作者の意図との対話」という視点を基に設定する。対話的な学びには、他者の様々な見方や考え方に触れ「1人では気づけなかったことに着目することができる。」「同じような意見を聞き、自分の考えに自信がもてる。」また、「相手に説明することで、自分の考えをより明確化できる。」等の良さがあると考える。

(3) 手立て

① 気づきや疑問を引き出す導入の工夫

- ア 既習事項を想起させる場面設定
- イ 課題提示の工夫
- ウ 視覚的に理解できるような資料活用の工夫
- エ 児童・生徒が気づきを得ることができると発問の工夫

② 探究心をもって、主体的に取り組むための工夫

- ア 目的意識をもって課題に向かわせる
- イ 効果的な問い返し
- ウ 言葉をつなぐ交流活動
- エ 思考ツールの活用

③ 見通しをもって学習に取り組める単元構想

- ア 次時に生かす効果的な振り返り
- イ 教師側が常に身につけさせたい資質・能力を意識して授業構想を練る。

5 研究の実践

実践1 中央中学校 教諭 山本幸司

(1) 実践の内容

実践1 中央中学校2年<保健体育> 授業者 山本 幸司

1 単元(題材) 長距離走(本時は4/8) 日時 10月12日2校時(9:55~10:45)
場所 校庭

2 わらい
記録向上のための練習方法を選択することができる。

3 研究主題に関わる手立て
導入の場面で、前時の活動を振り返りながら問い返しをたくさんすることで、自己の学習課題に気付かせる。
毎時間の最後に振り返りをホワイトボードを使い、クラス全体で共有することで次時の学習課題に繋げていく。

4 展開

導入

めあて「自分たちの課題にあった練習をしよう」

- 自己の学習課題に気付けるように対話の中で問い返しの場面を多くする。【めあての設定】

展開

- グループ別で、課題別練習のメニュー決めをする。【グループ別解決】
- トレーニングメニューの内容を確認できるように、やり方や高められる能力が書かれているカードを掲示する。
- グループで課題練習をする。【グループ別練習】
- 各トレーニングの練習方法を守り、鍛えられる能力を理解して行わせる。
- 学習カードにグループの中で良かったところや改善点を箇条書きで記録させる。

まとめ

- めあてを確認し、自分たちの課題にあった練習を選択し、行うことができたのかクラス全体で確認する。【学習のまとめ・考えの共有】
- 生徒と対話を通して授業者の振り返りをし、次時への新たな課題に繋げる。

(2) 成果と課題

①気づきや疑問を引き出す導入の工夫について

○生徒が自分自身の学習課題に気づけるように対話の中で問い返しの場面を多くしたことで、前時の振り返りから、「つかれた→ペースがバラバラ、右足が痛い→フォームの乱れ」と、気づきを学習課題につなげることができた。

- 個人によって目標タイムが違うので、ペースも異なるし、練習方法も変わってくるため、個人のめあてを伝え合う活動も必要だった。



生徒の言葉を拾い、学習課題を明確に！

②探究心をもって、主体的に取り組むための工夫について

○タイム別でグループ分けをしたことで、生徒は自己の課題を見つけやすかった。またグループ内で同じメニューを設定することで、お互いの声かけやアドバイスがしやすく意欲的に取り組むことができた。

○グループでの活動にしたことで、互いに声をかけ合うことができ、走りながらタイムの把握やフォーム等の確認をすることができた。

- 課題が曖昧なグループもあったため、個の課題を意識させ、グループの課題に繋げていけると良かった。
- 主体的に課題解決に向かう生徒の育成のため、タブレットを活用する場面があれば、トップアスリートの走り方(フォーム)を参考に視聴し、自分たちの走りを撮影して比較することができ、生徒が主体的に課題解決に向かうことができたのではないかと考えた。



グループ活動で声をかけ合う様子

③見通しをもって学習に取り組める単元構想について

○本時のめあてに戻って振り返りをし、生徒の発言から「どうして？」と問い直しをし、成果が上がったことへの対策を振り返らせたことは、学びの自覚につながり、次時への新たな課題に繋げることができた。

- 最終目標「学年別タイムレースで自己ベストを出そう！」に向けて、生徒自身が、単元が終わったときに、どのような姿になっているのかを明確にもたせることが必要だった。

実践2 神明小学校 教諭 永井彩加

(1) 実践の内容

実践1 神明小学校6年<算数> 授業者 永井 彩加

1 単元(題材) 拡大図と縮図(本時は4/10) 日時 11月11日4校時(11:35)
場所 6-2教室

2 ねらい
辺の長さや角の大きさを使った拡大図のかき方を考え、実際にかくことができるようにする。

3 研究主題に関わる手立て
・導入場面では、5年生で学習した合同な三角形のかき方を想起させることで、拡大図や縮図のかき方についての見通しをもてるようにする。
・児童全員が理解を深められるよう、1人の児童に説明をさせず、説明を途中で区切ったり、他の児童に説明をさせたりしていく。
・毎時間の最後に、「どんなことがわかったのか」「どんなことができるようになったのか」を振り返る時間を確保し、学びを深められるようにする。

4 展開

導入

めあて 「三角形ABCの2倍の拡大図をかくためにはどうしたらよいか考えてよう。」

- 既習の学習課題との類似点、相違点に気付かせることで、本時の学習課題が明確になるようにする。
- 児童の問いや疑問を基に、本時のめあてを設定させることで、主体的に学習に取り組むことができるようにする。【めあての設定】

展開

- 自力解決が困難な児童には、5年生で学習した合同な三角形のかき方を参考にし、3通りのうちのどれかを選んでかくよう助言する。【個別解決】
- 1人の児童にすべて説明させるのではなく、途中で区切ったり別の児童に説明させたりすることで、全員が学びを深められるようにする。【考えの共有】

まとめ

- 学習のまとめは、板書をもとに振り返り、児童の言葉を使ってまとめる。【学習のまとめ】
- 何をどのように学んだのかを自分の言葉で振り返らせ、次時の学習への意欲が高められるようにする。【振り返り】

まとめ 「合同な三角形のかき方を使うとかけ、拡大図は、辺の長さを何倍かにして、角の大きさは同じになる。」

(2) 成果と課題

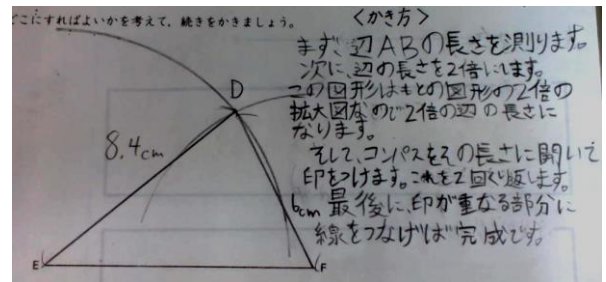
①気づきや疑問を引き出す導入の工夫について

- ICTを活用し、小さい三角形が拡大する映像を見せることで、「どこが、どう変わったのか」を視覚的に気づかせることができた。
- 児童との対話の中で出た言葉を拾ったり、問い返しをしたりしながら、めあてを設定することができた。
- 前時に書いた児童の振り返りを活用し、本時のめあてにつなげることができた。

②探究心をもって、主体的に取り組むための工夫について

- 既習事項の「合同な三角形」の学習を振り返ったことで、見通しを持つことができ、児童が主体的に活動することができていた。
- 児童の発言に問い返しをすることで、考えをつなぎ、クラス全体で課題を解決することができていた。

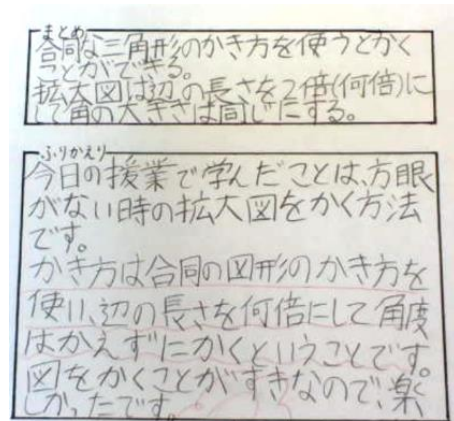
- 作図のみのワークシートを取り上げ、みんなで考えていくことがよかった。
- 3つの方法を理解し切れていない児童もいたので、友達と説明しあうなどの活動があると、理解が深まったのではないかと。
- 指名して答えさせていたが、児童の主体性を高めるために挙手させる場面があってもよかった。
- 苦手な児童のために、既習事項の提示の仕方を工夫する必要があった。



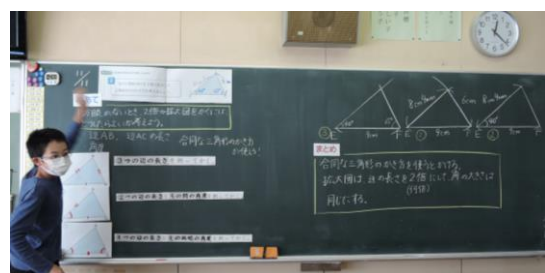
既習事項を活用してかいた拡大図のかき方

③見通しをもって学習に取り組める単元構想について

- 児童の言葉を使って、めあてやまとめを行うことで、「何をどのように学んだのか」という学びの自覚に繋がった。
- 次時への繋がりをもたせるためには、授業内に振り返りの時間をとることが必要である。



「どのように学んだか」が表れている振り返り



児童の言葉を使って行ったまとめ

実践3 広沢小学校 教諭 森崎靖子

(1) 実践の内容

実践1 広沢小学校5年<算数> 授業者 森崎 靖子

1 単元(題材) 図形の面積(本時は5/12) 日時 11月17日2校時(9:45) 場所 5-2教室

2 ねらい
三角形を既習の図形(長方形や平行四辺形)に等積変形や倍積変形して、三角形の面積を考える。

3 研究主題に関わる手立て
・いつでも既習を振り返ることができるように、既習事項を提示したり想起させる問いかけをしたりする。
・多様な考え方を知り、深めるために、友だちの考えを他の児童に説明させたり、言葉を繋いだりして授業を進めていく。
・毎時間の最後に振り返りを行い、次時につなげていく。

4 展開

導入
めあて「三角形の面積の求め方を考えよう。」
● 前時で学習した、平行四辺形の面積の求め方を提示することで、前時と同じように考えれば答えを導き出せるという解決の見通しをもたせる。【めあての設定】

展開
● 自分の考えがもてない児童には、三角形を切るなどの共有したい考えの一部を伝え、変形できることに気づかせる。【個別解決】
● 考えを深めるために、「図形と答え」や「式と答え」のように、一部分だけを発表させ、友だちがどのように考えたのかを別の児童に発表させる。【考えの共有】

まとめ
● まとめは授業を振り返り、児童の言葉をもとに整理する。【学習のまとめ】
● 本時の学習でわかったことや疑問に思ったこと等をノートに記入させる。【振り返り】
まとめ「三角形を長方形や平行四辺形の形に変えれば、その面積をもとめることができる。」

させることを徹底すると、式との関連性に自ら気づける児童が増えた。

- 全体交流の際、まだ作業していた児童もいた。自分の考えと友達の考えを区別して聞かせるか、また、区別して記録に残すかどうかを検討していく。



図だけを示して、考えを説明する様子

③見通しをもって学習に取り組める単元構想について

- 振り返りでは、学びの自覚とともに、次時に繋げられるような言葉もあり、授業の最後に発表させたことで、次時への意欲を高めることができた。
- 振り返りの時間を毎時間確保することができず、まとめまでで留まってしまいうこともあった。

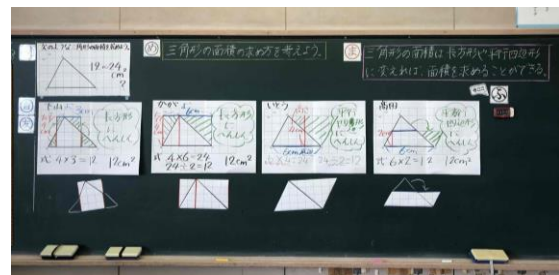
(2) 成果と課題

①気づきや疑問を引き出す導入の工夫について

- 前時で学習した、平行四辺形の考え方(模造紙にまとめたもの)を掲示し、どのように求めたか確認することで、本時に扱う三角形の面積の求め方についての見通しをもたせることができた。
- 児童の発言に対して問い返しをしたり、既習事項を振り返ったりして、児童と対話しながらめあてを設定することができた。

②探究心をもって、主体的に取り組むための工夫について

- 全体交流の際、式だけ示したり図だけ示したりと提示の仕方を工夫したことで、発表を聞くだけでなく、みんなで考える場になっていた。
- 切ったり、くっつけたりする数学的活動をさせたことで、図と関連付けて自分なりに立式することができた。
- 図に底辺や高さなどを色分けして記入



考えを比較しやすい板書の工夫



考えを明確にするための交流



ワークシートに書き込みながら試行錯誤する様子

実践4 新里中学校 教諭 永田将也

(1) 実践の内容

実践1 新里中学校2年<国語> 授業者 永田 将也

1 単元(題材) 投稿文 情報を関連づけて根拠を明確に示す (本時は1/4)

2 ねらい
自分の意見と根拠を明確にして説得力のある文章を書く際の工夫を考えることができるようにする。

3 研究主題に関わる手立て
 ・導入の場面でスライド資料を活用し、投稿文の身近な例を挙げて目的意識をもたせる。
 ・複数の投書記事が載ったワークシートを用意し、発見した筆者の工夫点をタブレットを用いて全体共有する。
 ・毎時間の最後に振り返りシートを記入することで、毎時間の学びを振り返る時間を確保し、次時の活動に見通しをもつ。

導入

めあて「複数の投稿文を比較して、説得力ある文章を書くためにはどうしたらよいかを考えよう。」

- 実際の新聞記事やSNSの投稿文を提示し、活動に対しての具体的なイメージをもたせる。
- 生徒との対話を通して本時のめあてを設定し、主体的に学習に取り組めるようにする。【めあての設定】

展開

- 8種類の投書記事が載ったワークシートを配布し、筆者の意見と、それを伝えるために施している工夫点を考える。【個別解決】
- タブレット端末を用いて、見つけた工夫点を交流し、全体で共有する。その際、工夫点が文中のどの部分に該当するかを明確に示させる。【考えの共有】

まとめ

- 本時の内容を踏まえて、自分が投稿文を書く際に気をつけることを単元計画のついた振り返りシートに記入する。【振り返り】

まとめ「投稿文は不特定多数に対して説得力をもたせるために、根拠として実体験や、情報の引用が多く使われている。」

(2) 成果と課題

① 気づきや疑問を引き出す導入の工夫について

- 生徒にとって身近なもの (Twitter、Instagram 等) を提示し、発信すること (思いや考えを伝えること) への意識づけを図ることができた。
- 上毛新聞を扱い、中学生の投稿文を取り上げたことで、「自分にも書けるかも」という意欲に繋がられた。
- “送る意欲” へのアプローチに偏ってしまい、“書く意欲” への意欲づけがやや不十分だった。



タブレットで工夫点を共有する様子

② 探究心をもって、主体的に取り組むための工夫について

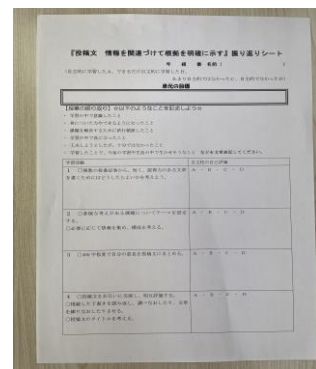
- 「何のために？」 「どんな気持ちで？」 「誰にあてて？」 と繰り返し問いかけることで、目的意識や相手意識をもたせることができた。
- 投稿文を読んで納得した箇所に線を引かせ、根拠を考えるなど、工夫点に気づかせるための手立てを講じられた。
- これまでの振り返りをさせた際、「構成を考えること」に触れていた生徒がいたので、その意見を拾って、本時のめあてに繋がれるとよかった。
- 構成を考えさせるのに新聞の投稿文を活用したのは良いが、分量が多かった。



工夫点の根拠となる部分をマークする様子

③ 見通しをもって学習に取り組める単元構想について

- 振り返りカードが単元で1枚とすることで、学習計画の見通しを生徒がもちやすく、毎時間の振り返りもスムーズに行うことができた。
- 工夫点をあげさせたときに、どの記事のことか、他の生徒に考えさせてもよかった。
- オクリンクを早く送れた生徒への対応を考えておくべきだった。



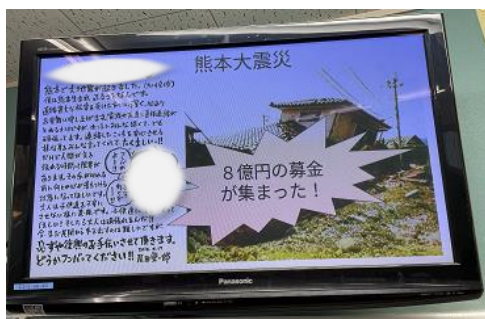
単元を通した振り返りシート

6 研究のまとめ

(1) 研究の成果

①気づきや疑問を引き出す導入の工夫について

- ・教師側から提示するのではなく、児童・生徒との対話を通して、めあてを設定することで、児童・生徒に課題意識をもたせることができた。
- ・既習事項の確認や児童・生徒の振り返りをもとに対話をしたことで児童・生徒がより主体的に授業に参加できた。
- ・既習事項との違いに気づくような発問の工夫を意図的に行うことで、児童・生徒が自ら目的意識をもって課題に取り組むことができた。
- ・ICTを活用して、図が拡大していく様子を示すことで、児童・生徒に本時の学習課題について見通しをもたせることができた。(算数)
- ・ICTを活用して、生徒にとって身近な話題を提示することで、児童・生徒が必要感を持って学習に取り組むことができた。(国語)



国語で導入に用いたモニター画面

②探求心をもって、主体的に取り組むための工夫について

- ・目的意識・相手意識を常にもたせる声かけを行うことで自力解決の時間がより有意義なものとなった。
- ・1人の児童・生徒に答えさせたり、説明させたりするのではなく、教師が問い返し・問い直しをして説明を繋げていくことで、みんなの考えを深めることができた。
- ・グループ交流を取り入れたことで、生徒が主体的に課題解決に向けて試行錯誤する姿が見られた。(保健体育)



体育でのグループ活動の様子

- ・児童・生徒の実態を把握し、適切な必要感・難易度の課題を示すことで、児童・生徒のやる気を引き出すことができた。
- ・タブレット端末を用いて、全体共有を行うことで、児童・生徒がより速く、手軽に多くの考え方に触れることができた。
- ・複数の情報を比較できるワークシートや、切り貼りすることで視覚的に理解できるワークシートの工夫を行うことで児童・生徒の主体性を持続させることができた。(国語・算数)



算数でワークシートの切り貼りにより、個別解決をする様子

③見通しをもって学習に取り組める単元構想について

- ・単元を通して振り返りを行っていくことで、「1時間の授業で何を、どのようにできるようになったか。」が明確になり、学びの自覚に繋がった。
- ・毎時間の振り返りを徹底することで、新たな課題を見つけ、次時への学習へと繋げさせることができた。
- ・単元計画と振り返りが一体化したワークシートを用いることで、見通しをもって学習に取り組む姿が見られた。(国語)
- ・単元の最初の授業で学習課題を設定し、毎時間それに向けて目的意識をもたせて授業に取り組ませることができた。

(2) 今後の課題

- ・学習内容を次時の学習に活用できるように授業時間内に振り返りができるような授業構想を工夫する必要がある。
- ・児童・生徒同士の対話活動においては、しっかりと交流の視点を明確にして取り入れていく必要がある。
- ・児童・生徒の思考の流れを意識したワークシート作成の工夫や、資料提示のタイミングを考える必要がある。
- ・振り返りがただの感想になってしまわないように、めあてに対して振り返らせたり、全体で授業のまとめをしっかりと行ったりする必要がある。

7 終わりに

新学習指導要領が全面実施となったことで、育成を目指す3つの柱として「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」が再整理された。

その中で、今年度の学力向上班では、児童・生徒が主体的に学習に取り組むためにはどのような工夫が考えられるか、という視点で研究や授業実践を重ねることができた。研究を進めていく中で、児童・生徒と関わりながら、対話をしながら共に授業を作っていく意識の重要性を実感できた。また、児童・生徒の「なぜだろう。」「どうしてだろう。」という気持ちが「学びに向かう力」につながり、主体的に学習に取り組む姿が多く見られたことを何よりも喜ばしく感じている。

本研究が、現場での日々の何気ない授業の中で、児童・生徒がいきいきと課題解決に向けて奮闘する姿につながる一助となることを願うばかりである。

今後も、試行錯誤しながら目の前の児童・生徒の実態に合った授業実践を行ってきたい。

最後に、本研究を進めるに当たってご指導・ご協力いただいた全ての方々に厚くお礼を申し上げます。

参考文献

- ・文部科学省『小学校学習指導要領解説・総則編』（平成29年）
- ・文部科学省『中学校学習指導要領解説・総則編』（平成29年）
- ・群馬県教育委員会『はばたく群馬の指導プランⅡ』（令和元年）
- ・群馬県教育委員会『学校教育の指針』（令和3年）
- ・桐生市教育委員会『教育行政方針』（令和3年）

本報告書に掲載されている商品又はサービスなどの名称は、各社の商標又は登録商標です。**Twitter** は **Twitter,Inc.**の登録商標です。**Instagram** は **Instagram,LLC** の商標又は登録商標です。オクリンクはベネッセコーポレーションの商標です。なお、本文中には™ マーク、® マークは明記していません。